



聴講無料・来聴歓迎

※シンポジウムは申込不要・来聴無料です。どなたでもお気軽にお越し下さい。
※シンポジウム終了後、懇親会を予定しております。

京都大学人文科学研究所社会人類学部門 創設50周年記念シンポジウム

人類学の誘惑

— 京都からの回顧と発信

2010年 4月17日(土) 13時→18時

京大会館

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15・9
<http://www.kyodakakan.jp/access.html>

共催：人文研アカデミー・京都人類学研究会
問合せ：京都人類学研究会事務局／TEL 075-753-6931(田中研究室)／メールアドレス ind_kyojinken@hotmail.co.jp

シンポジウム

◎司会：

ごあいさつ(13時)

田中 雅一 (京都大学人文科学研究所)
谷 泰 (京都大学 名誉教授)

■個別報告

「京都から考える」 菊地 暁 (京都大学人文科学研究所)

「辺境から考える」 飯田 卓 (国立民族学博物館)

「身体から考える」 佐藤 知久 (京都文教大学人間学部)

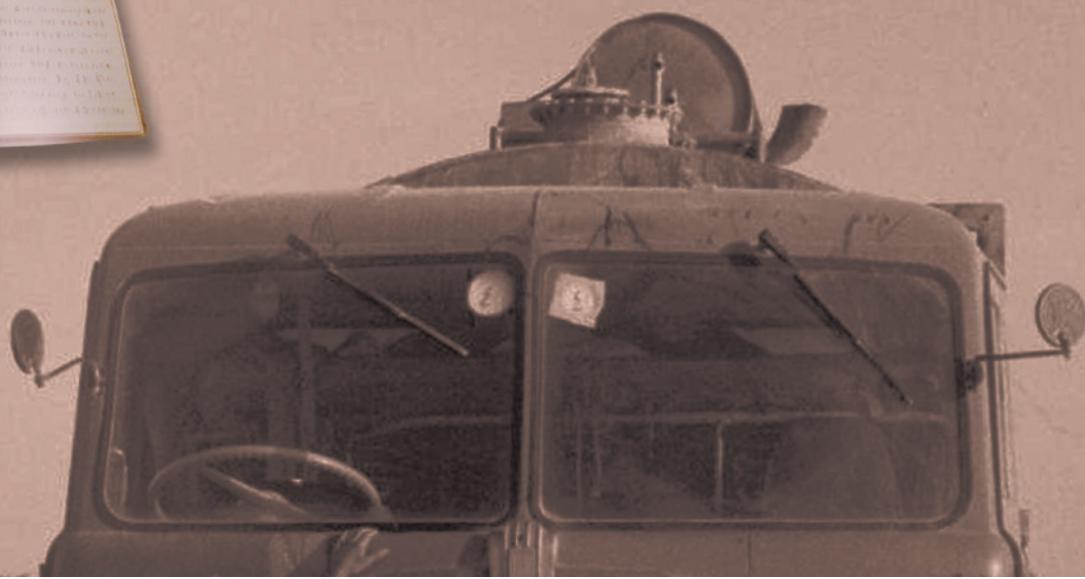
「専門を横断して考える」 河合 香吏 (東京外語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

◎コメンテータ： 石毛 直道 (国立民族学博物館 元館長・名誉教授)

◎コメンテータ： 野村 雅一 (総合研究大学院大学 副学長)

■総合討論(16時)

◎コーディネーター： 田辺 明生 (京都大学アジア・アフリカ地域研究科)



人文研アカデミー 2010 人類学の誘惑 京都からの回顧と発信

京都大学人文科学研究所・人文研アカデミーはこのたび、京都人類学研究会（前身は近衛ロンド）との共催で社会人類学部門設置50周年を記念するシンポジウム「人類学の誘惑—京都からの回顧と発信」を開催いたすことになりました。

人文科学研究所は、1959年に社会人類学部門を設置するにあたって、今西錦司博士を教授に迎えました。そして、京都大学アフリカ学術調査隊（今西錦司、和崎洋一、伊谷純一郎、米山俊直、藤岡喜愛、石毛直道、端信行、福井勝義氏ら参加、1963.6-1964.3）やヨーロッパ学術調査隊（梅棹忠夫、谷泰、松原正毅、野村雅一氏ら参加、1967、1969）などを組織するほか、内外の研究者の参加のもとで多くの共同研究班を組織することを通じて、京都大学を中心とする人類学の基礎を築くことになります。

このシンポでは、人類学のさまざまな領域で活躍されている4名の研究者に、これまでの人類学の蓄積を踏まえそれぞれ異なった視点から報告していただきます。またコメントには人文研の助手をされていた石毛直道・野村雅一両氏をお迎えし、人類学の魅力を再発見し、あらたな方向を指し示すことのできる議論が展開できればと考えています。ふるってご参加ください。（田中雅一）



会場までのアクセス

- 京都駅より市バス206号系統「京大正門前」下車 徒歩6分
- 京都バス21、23番系統「荒神橋」下車 徒歩2分
- 京阪電鉄「神宮丸太町駅」下車 徒歩7分

プロフィール



谷 泰

京都大学 名誉教授

たに・ゆたか 専門は文化人類学。

主な著書に『牧夫フランチェスコの一日』（日本放送出版協会、1976）、『聖書世界の構成論理』（岩波書店、1984）、『神、人、家畜—牧畜文化と聖書世界』（平凡社、1997）、『笑いの本地、笑いの本願』（以文社、2004）ほか、主な編著に『文化を読む』（人文書院、1991）、『コミュニケーションの自然誌』（以文社、1997）など。

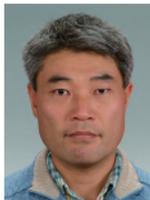


菊地 暁

京都大学人文科学研究所 助教授

きくち・あきら 専門は民俗学。

主な著書に『柳田国男と民俗学の近代—奥能登のアエノコトの二十世紀—』（吉川弘文館、2001）、『身体論のすすめ（京大人気講義シリーズ）』（編著、丸善、2005）など。



飯田 卓

国立民族学博物館 准教授

いいた・たく 専門は生態人類学。戦後期における人類学とマスメディアの関わりについても研究。

主な著書に『海を生きる技術と知識の民族誌—マダガスカル漁撈社会の生態人類学』（世界思想社、2008）、『電子メディアを飼いならす—異文化を橋渡すフィールド研究の視座』（共編著、せりか書房、2005）など。



佐藤 知久

京都文教大学人間学部 准教授

さとう・ともひさ 専門は文化人類学、都市論、北アメリカ研究。

主な著書に『はじまりとしてのフィールドワーク』（共編、昭和堂、2008）、『人類学で世界をみる 医療・生活・政治・経済』（共著、ミネルヴァ書房、2008）など。



河合 香吏

東京外語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授

かわい・かおり 専門は人類学。

主な著書に『野の医療—牧畜民チャムスの身体世界』（東京大学出版会、1998）、『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』（編著、京都大学学術出版会、2007）、『集団—人類社会の進化』（編著、京都大学学術出版会、2009）など。



石毛 直道

国立民族学博物館 元館長・名誉教授

いしげ・なほみち 専門は文化人類学、食文化研究。

主な著書に『住居空間の人類学』（鹿島研究所出版会、1971）、『食卓文明論 ちゃぶ台はどこへ消えた?』（中央公論新社、2005）、『石毛直道 食の文化を語る』（ドメス出版、2009）、『飲食文化論文集』（清水弘文堂書房、2009）、『文化人類学とははじめ』（フーディアム・コミュニケーション、1991）、主な編著に『環境と文化—人類学的考察』（日本放送出版協会、1978）、『東アジアの食文化』（平凡社、1981）など。



野村 雅一

国立民族学博物館 名誉教授／総合研究大学院大学 副学長

のむら・まさいち 専門は文化人類学、主に「自己演技」をキーワードに身ぶりやしぐさを含むコミュニケーションの人類学的研究を行なう。

主な著書に『しぐさの世界—身体表現の民族学』（日本放送出版協会、1983）、『ボディランゲージを読む』（平凡社、1984）、『身ぶりとしぐさの人類学—身体がしめす社会の記憶』（中公新書、1996）、『しぐさの人間学』（河出書房新社、2004）ほか、主な共編著に『叢書 身体と文化 1-3』（大修館書店、1996-2005）など。



田中 雅一

京都大学人文科学研究所 教授

たなか・まさかず 専門は文化人類学、セクシュアリティ研究。

主な著書に『供儀世界の変貌』（法蔵館、2002）ほか、主な編著・共編著に『暴力の文化人類学』（京都大学学術出版会、1998）、『女神』（平凡社、1998）、『植民地主義と人類学』（関西学院大学出版会、2002）、『ミクロ人類学の実践—エイジェンシー/ネットワーク/身体』（世界思想社、2006）、『フェティシズム研究1 フェティシズム論の系譜と展望』（京都大学学術出版会、2009）など、責任編集に『コンタクト・ゾーン』（人文研）など。



田辺 明生

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授

たなべ・あきお 専門は歴史人類学、南アジアの社会・歴史・政治の研究に従事。

主な著書に『カーストと不平等—インド社会の歴史人類学』（東京大学出版会、2010）ほか、主な共編著に『The State in India: Past and Present, New Delhi』（Oxford University Press、2006）、『地球圏・生命圏・人間圏—持続型生存基盤とは何か』（京都大学学術出版会、2010）、『南アジア社会を学ぶ人のために』（世界思想社、2010）など。